日本図学会年表（1997～2006）

事務局長

横山 ゆりか Yurika YOKOYAMA

- 1) 本年表は1997年1月から2006年12月までの図学会の活動をまとめたもので、支部活動は原則として載せていない。
- 2) 記載は基本的に『図学研究』を典拠とした。

平成9年（1997年）

- 1：第42回 GST 研究会（於三菱重工業株式会社神戸造船所），講演2件
- 4：図学研究30周年記念号『図学は今』刊行（委員長堤江美子）；30周年記念出版『シンセティック CAD』刊行（委員長鈴木賢次郎）
- 5：日本図学会1997年度・創立30周年記念大会（於東京大学），記念講演「エンジニアリング・デザイン・グラフィックス・カリキュラムの現代化」（Davor Juricic）（『図学研究』第77号掲載），シンポジウム「図学の基礎領域とその展開」（井野智・鈴木賢次郎・D. Short・長江貞彦・面出和子），記念式典，学術講演39件，会員数364名，役員改選（会長永野三郎）；30周年記念出版『マルチメディア・コミュニケーション』刊行（委員長長江貞彦）
- 7：第3回日中国学教育研究国際会議を中国雲南省昆明市昆明工科大学で開催，日本側発表論文27編参加者40名，報告は『図学研究』第78号に掲載
- 11：第43回 GST 研究会（於牛窓研修センター「カリヨンハウス」），講演2件；本部例会（於日本大学生産工学部），講演10件；第20回国学教育研究会「半年の一般（教養）図学」

平成10年（1998年）

- 4：第44回 GST 研究会（於山野酒造株式会社），講演1件
- 5：日本図学会1998年度大会（於北海道大学），記念講演「人と図形」（東弘孝），学術講演30件，会員数351名；第21回国学教育研究会「機械系図学関連教育」，講演5件，報告は『図学研究』第81号に掲載
- 6：30周年記念出版『美の図学』刊行（委員長小山清男）
- 7：第8回国学国際会議（8th ICECGDG）を米国テキサス州オースチン市テキサス大学で開催，この会議でISGGを正式主催団体として認証，発表論文117編，日本からの参加者56名，報告は『図学研究』第82号に掲載
- 9：第45回 GST 研究会（於大阪電気通信大学）
- 11：本部例会（於埼玉大学），講演11件；第22回国学教育研究会「造形芸術・被服系図学関連教育」，講演5件，報告は『図学研究』第84号に掲載

平成11年（1999年）

- 1：会誌『図学研究』の投稿規定を改訂
- 3：第46回 GST 研究会（於明星金属工業 K.K.）；会誌『図学研究』の装丁が変わり，内容

の一層の充実が図られる

- 5：日本図学会1999年度大会（於武蔵工業大学），学術講演32件，会員数351名，役員改選（会長吉田勝行），会費改定が承認される；第23回国学教育研究会「CG 図学」，講演 5 件，報告は『図学研究』第85号に掲載
- 7：第4回日中国学教育研究国際会議を中国敦煌において開催，招待講演 5 編，発表論文46編，日本からの参加者36名，報告は『図学研究』第86号に掲載
- 9：第47回 GST 研究会（於大阪電気通信大学）
- 11：本部例会（於東京工科大学），講演 6 件；第24回国学教育研究会「設計にとって図学は必要か」，講演 2 件，報告は『図学研究』第87号に掲載

平成12年（2000年）

- 3：日本学術会議50周年記念シンポジウム「数学教育の改善をめざして」にて鈴木賢次郎・加藤道夫両氏が幾何学教育の必要性を意見する，研究報告書「『総合的な学習の時間』の単元カリキュラムの開発と理論モデルの構築に関する研究」に「かたちを主題にした総合的な学習の実践」（小林範夫）掲載，報告は『図学研究』第93号に掲載
- 4：第48回 GST 研究会（於大阪産業大学），講演 2 編
- 5：日本図学会2000年度大会（於いわき明星大学），特別講演「歴史教科書を変える最近の考古学的成果」（馬目順一），学術講演21件，会員数354名；日本図学会賞授賞規定を改定；学会活動および図学研究の電子化についてのアンケートを実施，結果は『図学研究』第90号に掲載；第25回国学教育研究会「設計と図学」，講演 4 編；第5回日中国学教育研究国際会議（大阪）の準備を開始（組織委員長吉田勝行）
- 7：第49回 GST 研究会（於関西文化サロン），講演 4 編；第9回国学国際会議（9th ICGG）南アフリカ共和国ヨハネスブルグにて開催，招待講演 4 編，発表論文73編，日本側参加者39名，報告は『図学研究』第90号に掲載
- 11：本部例会（於筑波技術短期大学），研究発表13編；第26回国学教育研究会「専門科目としての CG 教育」，講演 4 編，報告は『図学研究』第91号に掲載

平成13年（2001年）

- 3：日本学術会議シンポジウム「21世紀の多様性社会における基礎学力とは」において講演「図学的表現ツールの進化と表現上の誤りの増加について」（吉田勝行），報告は『図学研究』第93号・102号に掲載
- 5：日本図学会2001年度大会（於青山学院大学），特別講演「知識進化図作成システム」（辻正重），学術講演27件，会員343名，役員改選（会長鈴木賢次郎）；第27回国学教育研究会「専門科目としての CG 教育(2)」，講演 4 編，報告は『図学研究』第93号に掲載
- 6：ホームページ改定・メーリングリストの設置など電子的環境の向上が図られる
- 7：第5回日中国学教育研究国際会議を大阪ガーデンパレスにて開催，招待講演 4 編，発表論文58編，日本側参加者73名，報告は『図学研究』第94号・95号に掲載
- 8：日本学術会議科学教育研連フォーラム「日本の21世紀半ばを想定した科学教育の体系化構想」において講演「視覚化と図的思考をめぐる」（小高直樹），報告は『図学研究』第102号に掲載
- 12：本部例会（於神奈川工科大学），研究発表 8 編；第28回国学教育研究会「図学関連科目のシラバスと教材その1」，講演 2 編，報告は『図学研究』第95号に掲載

平成14年（2002年）

- 2：名誉会員内規を制定、『図学研究』第96号に掲載
- 5：日本図学会2002年度大会（於中部大学），特別講演「生きるための動と静の戦略」（山下興亜），学術講演31件，会員343名；第29回国学教育研究会「図学関連科目のシラバス構築へむけて」，報告は『図学研究』第97号に掲載
- 6：『図学研究』通巻100号を発行
- 7：第10回国学国際会議（ICGG）ウクライナ共和国キエフにて開催，招待講演4編，発表論文94編，日本側参加者38名，報告は『図学研究』第98号に掲載
- 9：日本図学会，日本技術者教育認定機構（JABEE）の正会員となる
- 11：本部例会（於文部省共済宿泊所静雲荘），研究発表14編；第30回国学教育研究会「模型と展開図の活用」，講演9編，報告は『図学研究』第99号に掲載；図学および図的表現法の教育に関する実状調査を実施
- 12：日本学術会議シンポジウム「世界をリードするこれからの戦略的な科学技術教育の推進」において提案「科学技術者を支える指導者，創造的研究者，創造的技術者の育成」（加藤道夫），報告は『図学研究』第102号に掲載

平成15年（2003年）

- 2：日本学術会議シンポジウム「21世紀の市民の科学・技術リテラシーの体系化」において提案「身近な美の理解を助ける図学とその教育」（近藤邦雄），報告は『図学研究』第102号に掲載
- 5：日本図学会2003年度大会（於女子美術大学），女子美アートミュージアム・ギャラリートーク「具象と抽象のはざま」展（林敬二），学術講演33件，会員336名，役員改選（会長鈴木賢次郎）；第31回国学教育研究会「CAI システムおよび模型の活用」，発表8編，報告は『図学研究』第101号に掲載
- 7：第6回日中国学教育研究国際会議を西安で開催予定であったが，新型肺炎（SARS）流行のため開催を断念；第6回日中国学教育研究国際会議プロシーディングズを発行，収録論文77編
- 11：本部例会（於熱海ニューフジヤホテル，研究発表16編，報告は『図学研究』第103号に掲載；第32回国学教育研究会「図学及び図的表現法の教育の現状と今後の展開」，発表2編，報告は『図学研究』第103号に掲載

平成16年（2004年）

- 2：図学および図的表現法の教育に関する実状調査結果まとまる，『図学教育調査報告書』および『図学研究』第107号に掲載
- 5：日本図学会2004年度大会（於神戸大学），特別講演「漢字の書法の変遷」（魚住和晃），学術講演43件，会員339名；第33回国学教育研究会「図学教材とその活用」，報告は『図学研究』第105号に掲載
- 7：第11回国学国際会議 ICGG 中華人民共和国広東にて開催，招待講演4編，発表論文108編，日本側参加者37名，報告は『図学研究』第106号に掲載
- 12：本部例会（於伊東パウエル），研究発表14編，報告は『図学研究』第107号に掲載；第34回国学教育研究会「CG/CAD ツールを利用した図学教育」，講演9編，報告は『図学研究』第107号に掲載；JABEE 国際シンポジウム「技術者教育とエンジニアリングデザ

イン」においてエンジニアリングデザインの共通認識声明が出され図表現が必要能力に含まれる

平成17年（2005年）

- 5：日本図学会2005年度大会（於埼玉大学），特別講演「リンクス・デジワークス：CM&ゲームムービー'04/'06」（福本隆司），学術講演38件，会員343名，役員改選（会長加藤道夫）；第35回国学教育研究会「造形デザイン系の図学教育における教材とその教育実践」，発表5編，報告は『図学研究』第109号に掲載；大会学術講演に対する優秀研究発表賞および研究奨励賞を創設
- 7：第7回日中国学教育研究国際会議を西安にて開催，発表論文65編，報告は『図学研究』第109号に掲載
- 10：日本図学会，日本学術会議の登録学術団体から協力学術研究団体（第三部）へと移行
- 12：本部例会（於摂南大学），特別講演「企業におけるデジタルエンジニアリングツールの活用」（宇土和宏）「図学／設計製図教育への3D-CAD/CG導入」（鈴木賢次郎），研究発表19編，報告は『図学研究』第111号に掲載；第36回国学教育研究会「図学教育における透視図法の現状と今後」，発表12編，報告は『図学研究』第111号に掲載

平成18年（2006年）

- 4：企画委員会を設置
- 5：日本図学会2006年度大会（於九州産業大学），特別講演「シーボルトと絵師川原慶賀」（谷口治達），学術講演39件，会員346名；第37回国学教育研究会「デジタルコンテンツ時代の図学教育」，発表5編，報告は『図学研究』第113号に掲載；『図学研究』掲載論文に対する論文賞（研究論文賞・教育論文賞）を創設；創立40周年記念事業準備委員会を設置，準備を開始
- 7：第12回国学国際会議（ICGG）ブラジル国サルバドールにて開催，招待講演4編，発表論文92編，鈴木賢次郎氏 The Steve M. Slaby Award 受賞，報告は『図学研究』第114号に掲載
- 9：創立40周年記念事業計画固まる（記念大会の開催（於東京大学）・記念講演（海外より研究者を招聘）・記念出版事業〔創立40周年記念誌（委員長梶山喜一郎），『Pov-Rayで学ぶ図形科学〈仮称〉』（鈴木広隆ほか）『図学用語集』（委員長加藤道夫）『CAD/CG時代の図形科学〈仮称〉』（鈴木賢次郎ほか）〕・記念表彰〔論文賞・功労賞など〕）；特別講演会「インスブルック大学における図学—幾何学とCAD教育」（ハンス・ペーター・シュロッカー）（於東京大学），『図学研究』第114号に掲載
- 12：本部例会（於静岡文化芸術大学），特別講演「自由曲面の研究について」（東正毅），研究発表13編，報告は『図学研究』第115号に掲載；第38回国学教育研究会「CG/CAD，造形デザイン教育と評価方法」，発表4編，報告は『図学研究』第115号に掲載；40周年記念大会に向けて『図学研究』誌上討論行われる；40周年記念大会の準備作業順調に進む